

南ア：悪沢岳・赤石岳

- ◆日程 2023年7月25日(火)～27日(木)
 ◆メンバー L：0T

南アルプス南部のこのルートは入会した最初の夏(20190713-15)に計画したが悪天候で2度延期。が、その年の台風19号による林道崩壊とコロナで閉鎖。2022年の営業再開で早速計画したが自身がコロナ発症。今回ようやく念願がかなった。このエリアでは人気のコースだが、平日のため空いており、快適な山行となった。

7月25日(火) 天候：晴れ時々曇り

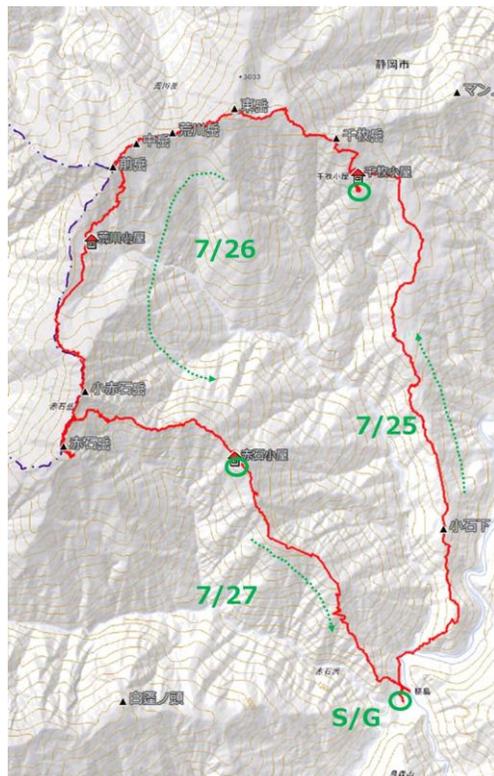
深夜0:30出発、新東名の新静岡ICから長い曲がりくねった山道を進み、夜が明けて5時に畑薙夏季臨時駐車場着。平日なので広い駐車場に車は少ない。5:30に到着した毎日あるペン号からの客はたったの2名。送迎バス(下記注)の時刻(7:15)まで仮眠。マイクロバスに10～15名ほどでヘルメット着用のうえ、乗車。崩落の傷が残る林道を通るため激しく揺られる。着いた榎島は洒落た会員制リゾート地の様相。吊り橋の先の登山口からはひたすら樹林の中を登る。2000mを越えた頃には雲が出て風も通るため涼しく進めた。千枚小屋で受付のために入館すると最上階まで吹き抜けたモダンな造りで楽しげ。2分ほど下った樹林内のテント場は空いている。今回は35Lザックでツェルト泊。一時雲行きが怪しかったが、再び晴れ。濡れることなく快適な夜となった。

(注) 榎島への送迎バスは特種東海フォレストが運営に関与する山小屋への1泊以上の宿泊した人だけが無料で乗車可能。宿泊予約時に、往復の送迎バスを予約可能。テント泊のみの人は、駐車場から徒歩で6時間、または自転車の人も。

CT: 榎島 8:45 - 清水平 11:30 - 蕨段 12:00 - 駒鳥池 13:10 - 千枚小屋(幕営) 13:55

7月26日(水) 天候：晴れのち雨

今回の縦走は2日目がハイライト。全てのピークを経由して宿泊地まで下るCT11時間のロングルートだ。2:30起床, 4:00出発。ツェルトは設営が面倒だが、撤収は簡単。登山開始後程なく千枚岳。丁度ご来光直後で、360度の眺望。ここからの富士山は大きい。お花畑と急な斜面を経て丸山に到着すると後続の登山者と一緒に雷鳥の一家が登頂してきた。そこからは荒々しい岩稜を経て悪沢岳到着。ここからは聖岳への険しい稜線も手に取るようだ(写真下)。お隣の荒川三山の残り2つ(中岳, 前岳)のピークへはなかなかのスケール感。登下降を繰り返



返す間に赤石岳が徐々に近づく。荒川小屋への途中、鹿の食害からの保護柵で囲まれたお花畑(写真右上)。噂通りの美しさだ。途中の水場で渴きを癒す。小屋で一服後、赤石岳への高低差500mの長い登り返し。振り返ると荒川三山の豪快な姿(写真左下)。ひたすら喉が渴く。昼近くなり赤石岳も荒川三山も雲の中。夕立が心配されるため先を急ぐ。と、霧の中から雷鳥親子。つい夢中で撮影してしまう。下山路と山頂の分岐点でデポして一気に山頂へ。雲の合間から聖岳が時々顔を見せる。その聖岳を背に一羽の雷鳥(写真右下)。下山開始後に小雨、赤石小屋直後に雷雨となった。夕飯はお肉たっぷり、ご飯と味噌汁おかわり自由で大満足。小屋の許容人数は4割程度に制限しているとのことで、アクリル板で仕切り、広々と寝られた。



CT：千枚小屋 4:10 - 千枚岳 4:55 - 悪沢岳(荒川東岳) 6:20/7:00 - 荒川小屋
9:20/9:45 - 赤石岳 12:10/12:50 - 赤石小屋(小屋泊) 15:05

7月27日(木) 天候：晴れのち雨

5時前、日の出後に起床。前夜の夕立が嘘のような晴れ、荒川三山、赤石岳、聖岳、上河内岳までくっきりと見える。空いている食堂で自炊後、6:15に下山開始。ルート of 東尾根は別名「大倉尾根」。塔ノ岳の大倉尾根(通称：馬鹿尾根)は地名由来だが、こちらは間ノ岳までの広大な山林を所有した大倉財閥の創始者、大倉喜八郎に由来する。こちらの高低差は1400mで少し大きい。涼しいうちにと一気に降り、樺島に到着。予約していた送迎バスの一つ前(10:30)の便に乗れた。マイカーに乗り換え、すぐ近くの白樺荘の温泉で汗を流し、長い山道を下り、静岡市内で念願の「さわやかハンバーグ」で空腹を満たした。

CT：赤石小屋 6:15 - 樺段 7:30 - 樺島 8:15

噂通りスケールが大きい山々で体力を要したが、充実の山旅となった。定番コースとはいえ、平日だったためか同じルートを同時に進んでいた人は5人だけ。他は、悪沢岳から鳥倉へ北上する人。赤石岳を経由して聖岳へテント4泊で進む人、鳥倉と赤石岳をテント3泊で往復する人など、通な人が多い。自分も南アルプス南部でロングルートを歩いてみたいと思う。

(記：OT)

